

【表紙写真について】

能力開発研究所(徳島、1988年竣工)。大塚のDNAである「創造性」のある人材を育成するためのグループ社員用研修施設。



第 4 期

事業活動のご報告

(2011年4月1日～2012年3月31日)

大塚ホールディングス株式会社

証券コード 4578



Otsuka

Otsuka-people creating new products for better health worldwide

世界の人々の健康に貢献する革新的な製品を創造する

大塚グループは、この企業理念のもと、世界の人々の健康に貢献することを使命とするグローバルヘルスケア企業です。身体全体をヘルスケアの対象としてとらえ、病気の診断と治療に寄与する「医療関連事業」と、日々の健康の維持・増進をサポートする「ニュートラシューティカルズ[®]関連事業」を2本の柱に事業を展開しています。世界24カ国・地域に広がるグループ社員が、“健康”という人類の普遍的な願いに貢献すべく、様々なテーマに挑戦しています。

大塚グループの理念を具現化した、「巨大なトマトの木」 「曲がった巨大杉」「水に浮かぶ石」

グループ発祥の地、徳島にあるこの3つのモニュメントは大塚グループの理念の根幹をなす「創造性」を具現化したものであり、常に創造性や発想の転換の重要性を伝えています。



ホールの天井全体を覆うトマトの木は、水気耕栽培により根を土から解放した結果、多いときで年間1万個以上の実をつけます。既成概念から自らを解放することで限らない潜在能力を発揮することができる、このトマトの木にはそんなメッセージが込められています。



本来曲がらないはずの杉の大木が深くお辞儀をするように曲がり、その上にもう1本の杉の木が横たわり一点を留めて安定しているこのオブジェ。既成概念の打破、発想の転換の重要性を私たちに語りかけています。



浮かぶはずのない大きな石が、豊かにたたえられた水面にいくつも浮かぶ水の石庭。見る人の心をとらえ、豊かにし、考える力を育む庭として制作されました。まるい石は、人間に対する愛や、人々の健康を願う大塚の思いを表しています。

大塚らしい創造的な製品で 更なる成長を目指す



株主の皆様には、平素より当社グループの事業に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社は2010年12月に東京証券取引所に上場し、上場後における年間を通しての決算と事業進捗のご報告は今回が初めてとなります。

昨年度は2011年5月に第一次中期経営計画を公表し、計画の最終年となる2013年度における業績目標とその実現に向けた重点施策を皆様にご報告しました。本計画期間中の初年度となる2011年度の業績は、重点施策を確実に実行することにより、震災や長期化する円高の影響など厳しい外部要因を吸収して増収増益を達成しました。

医療関連事業においては、世界65カ国・地域で展開する「エビリファイ」がグローバルで引き続き売上を拡大し、業績を牽引しました。加えて、国内における「アロキシ」「アブラキサン」「イーケブラ」「サムスカ」といった新薬の順調な成長と、「エルネオパ」の拡大を中心とした臨床栄養製品の堅調な推移が業績に貢献しました。ニュートラシューティカルズ関連事業（NC関連事業）においては、世界16カ国・地域で展開する「ボカリスエット」が、国内こそ猛暑による好影響を受けた2010年度には及びませんでした。海外では販売数量が前期比20%以上の伸長と好調を継続しています。更に、継続したコスト構造の見直しなど収益改善に向けた取り組みが成果をあげ、利益成長を実現しました。

一方では将来への布石として、医療関連事業においては、デンマークのルンドベック社と中枢神経領域におけるグローバル・アライアンス契約を2011年11月に締結しました。本提携により、中枢神経領域における長期成長の実現を目指します。また、40年にわたり新薬の出ていない結核治療薬の開発など、アンメットメディカルニーズに対応した新薬の開発に取り組んでいます。更には、医療機器事業を当社グループの中心的事業に育成するべく、整形外科分野に特化したKiSCO(株)を11月に買収、12月には革新的な自走式内視鏡技術を有するEra社(イタリア)に資本参加しました。今後、まず国内とアジアを中心に事業を育成します。NC関連事業においては、身近で栄養豊富な大豆(Soy)が、地球上の健康問題・環境問題などの解決(solution)になる「Soylution」のコンセプトのもと、大豆の栄養をまるごと美味しく摂取できる製品の開発とグローバル展開に取り組んでいます。「ソイジョイ」「ソイッシュ」に続く第三弾の製品として、本年4月にヘルシー大豆スナック「ソイカラ」を新発売しました。今後も新たなSoylutionの提案に取り組めます。

更なるグローバル成長を目指し一丸となって邁進する大塚グループへ、皆様の尚一層のご支援を心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長 兼 CEO

樋口達夫

第一次中期経営計画の達成に向けて

Otsuka-people creating new products
for better health worldwide

Progress Review of First Medium-Term Management Plan

当社は2011年度を初年度とする第一次中期経営計画を策定し、2013年度までの本中期経営計画期間は、グローバルヘルスケア企業として、世界トップクラスを目指す体制整備に目処をつける3年間と位置づけています。

本中期経営計画は、以下に示す主な施策を確実に実行することで企業価値の向上を目指して昨年スタートしました。1年目を終えて、その主な進捗は以下のとおりです。

第一次中期経営計画の位置づけ

「医療関連事業」と「NC関連事業」を両輪とするグローバルヘルスケア企業として、世界トップクラスを目指す体制整備に目処をつける3年間

主な施策

革新的自社医薬品の育成

NC関連事業利益成長のための収益構造改革

戦略的提携等による次世代事業の育成

主な施策の進捗について

革新的自社医薬品の育成

戦略的提携等による次世代事業の育成

中期経営計画における本施策推進の一環として、2011年11月に大塚製薬は中枢神経領域におけるグローバル・アライアンス契約を、同領域におけるグローバル・リーダーの1社であるデンマークのルンドベック社と締結いたしました。この契約に基づき、うつ病や不安症に実績を持つルンドベック社と抗精神病薬に実績を持つ大塚製薬が協働することで、より進化した中枢事業の進展を期待することができます。今回の契約のポイントとして次の2点があげられます。

- アリピプラゾール持続性注射剤(月一回製剤)とOPC-34712の共同開発・商業化へ向け、ルンドベック社から大塚製薬へ最大約18億USドルの支払いに合意
- ルンドベック社が現在研究開発を進めている中枢神経疾患を対象にした最大3つの新規化合物およびアリピプラゾール持続性注射剤とOPC-34712をあわせた最大5つの化合物に関する共同開発・商業化を実施

このアライアンスにより、日・米・アジアの既存販路に加えて、ルンドベック社の販路である欧州地域を中心に南米、オセアニア^{*1}、BRICs^{**2}など世界の多くの地域をカバーすることが可能となります。更に今回のアライアンスは、ルンドベック社が研究を進める3つの新規化合物の共同開発・共同販売へとつながり、両社の長期にわたる中枢神経領域での成長が期待されます。

*1: オーストラリア、ニュージーランドなど *2: ブラジル、ロシア、インド、中国

地理的戦略

- 日・米・アジアでの強みを持つ大塚製薬
- 欧州を中心に南米・新興国に強みを持つルンドベック社
- グローバルな経験(臨床開発・薬事・商業化・薬価交渉等)を共有し事業を拡大する

研究戦略

- 抗精神病領域に強みを持つ大塚製薬
- 抗うつ・不安薬領域を知り尽くしたルンドベック社
- 新しい切り口により、既存の価値を磨き、新規領域への挑戦を可能とする

中枢領域戦略

- 大塚製薬: 次世代の中枢神経領域のポートフォリオの充実
- ルンドベック社: 統合失調症からアルツハイマーまでの広い疾患をカバー

相似した企業文化

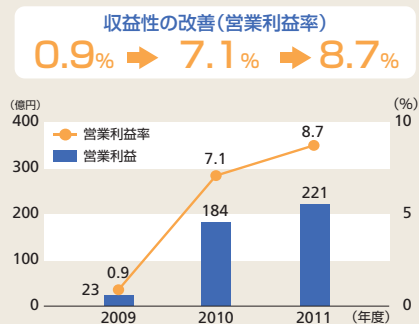
- 成功につながる環境をつくる価値観の共有を可能とする
- 互いの伝統を尊重でき、目標を共有できる

NC関連事業利益成長のための収益構造改革

中期経営計画におけるNC関連事業の利益成長については、右の図表に記載のとおり、「ポカリスエット」などのグローバル製品の更なるエリア展開による市場拡大や、新製品での新市場創出による売上増に積極的に取り組みました。一方、製造原価の低減・経費の適正化を推進しつつ、新市場を創出するための資源をバランス良く配分することにより収益改善に成果をあげました。

2011年度における営業利益率は8.7%となり、順調に推移しています。

●市場拡大による売上増とコスト構造の見直しによる利益成長



売上増

- ◎海外「ポカリスエット」などグローバル製品の売上増
- ◎国内 新製品を中心とした売上増

顧客育成

- ◎プルマーケティングによる新市場創出(売上高比率は微増)

製造原価の低減

経費の適正化

第一次中期経営計画 業績目標および進捗状況

2011年度業績は以下の表のとおりです。業績内容の詳細は、連結損益ハイライト(P5-6)ならびにセグメント別概況(P7-8)のページをご参照ください。

業績目標と2011年度進捗

(単位:億円)	2010年度 実績	2013年度 計画	CAGR (年平均成長率)	2011年度 実績	対前期 増減率
売上高	11,276	13,300	6.9%	11,546	2.4%
海外売上高比率	49.0%	50.0%		50.2%	
研究開発費	1,647	2,000	6.7%	1,592	▲3.3%
対売上比	14.6%	15.0%		13.8%	
営業利益	1,263	2,000	19.4%	1,487	17.7%
対売上比	11.2%	15.0%		12.9%	
純利益	824	1,300	17.1%	922	11.9%
EPS(1株当たり純利益)	164.51円	230円	12.4%	165.20円	
ROE(株主資本利益率)	7.9%	10%以上		7.8%	

中期計画為替前提 1米ドル=85円、1ユーロ=115円
 2010年度実績レート 1米ドル=87.79円、1ユーロ=116.27円
 2011年度実績レート 1米ドル=79.79円、1ユーロ=111.12円
 2010年度実績は会計方針の変更に伴う遡及修正後の数値

2012年度 (第一次中期経営計画2年目)の展望

医療関連事業では、「エビリファイ」の売上の堅調な推移とともに「アロキシ」「アブラキサソ」「イーケプラ」「サムスカ」などの新製品の成長が売上増加を牽引すると期待しています。また、アリピプラゾール持続性注射剤の米国での承認を予定しています。一方、中枢神経領域における次世代の抗精神病薬OPC-34712などの開発状況の進展に伴い、研究開発費が増加しますが、将来の成長のために必要な投資であると考えています。NC関連事業では、新製品の「ソイカラ」や主要製品の「ポカリスエット」などにおいて、引き続き製品価値訴求の販促活動に注力し、売上の拡大および利益構造の改善に取り組みます。

2012年度業績見通し

(単位:億円)	2011年度 (実績)	2012年度 (見通し)	対前期増減(予想)	
			増減額	増減率
売上高	11,546	12,000	454	3.9%
営業利益	1,487	1,650	163	11.0%
経常利益	1,521	1,700	179	11.8%
純利益	922	1,080	158	17.2%
研究開発費	1,592	1,700	108	6.8%
EPS(1株当たり純利益)	165.20円	193.60円		
1株当たり配当金	45円	58円		

2011年度実績レート 1米ドル=79.79円、1ユーロ=111.12円
 2012年度予算レート 1米ドル=75円、1ユーロ=102円

連結損益ハイライト

Consolidated Operating Results

Otsuka-people creating new products
for better health worldwide

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期	当期
	自 2010年4月1日 至 2011年3月31日	自 2011年4月1日 至 2012年3月31日
売上高	1,127,589	1,154,573
売上原価	379,025	389,262
売上総利益	748,564	765,311
販売費及び 一般管理費	622,272	616,649
営業利益	126,292	148,661
営業外収益	10,756	8,615
営業外費用	8,647	5,157
経常利益	128,400	152,119
特別利益	5,917	1,171
特別損失	11,287	10,886
税金等調整前 当期純利益	123,030	142,405
法人税、 住民税及び事業税	33,598	54,988
法人税等調整額	5,438	△5,396
少数株主利益	1,623	639
当期純利益	82,369	92,174

【会計方針および表示方法の変更】

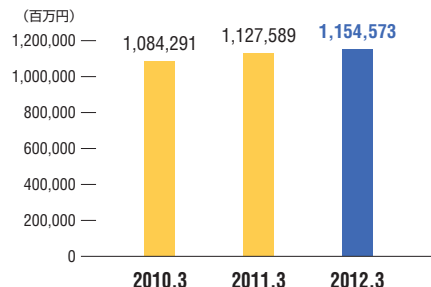
在外子会社等の収益および費用は、従来、当該在外子会社等の決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、当連結会計年度より期中平均為替相場により円貨に換算する方法に変更しております。また、ライセンス許諾に伴う一時金収入は、従来、営業外収益の「共同販売権延長収益」および「その他」に計上しておりましたが、当連結会計年度より売上高に計上する方法に変更しております。なお、2010年度(2011年3月期)の財産および損益の状況は、これらの変更について避及適用した金額を記載しております。

売上高



2.4%増

(前期比)



【医療関連事業】

◎抗精神病薬「エビリファイ」はグローバルで引き続き業績を拡大し、世界の医薬品売上トップ10*に入るまでに成長しました。

◎2010年新発売の制吐剤「アロキシ」、抗がん剤「アブラキサン」、および抗てんかん剤「イーケプラ」と利尿剤「サムスカ」は順調に売上を拡大しました。

【ニュートラシューティカルス関連事業】

◎「ポカリスエット」は、猛暑による好影響を受けた前期を下回ったものの、夏に向けて熱中症対策を意識した「100ml当たりナトリウムを49mg含む飲料」および秋以降の日常生活における水分補給の重要性という製品価値の訴求に注力した結果、ほぼ計画の範囲での推移となりました。海外では前期比20%以上の販売数量増となりました。

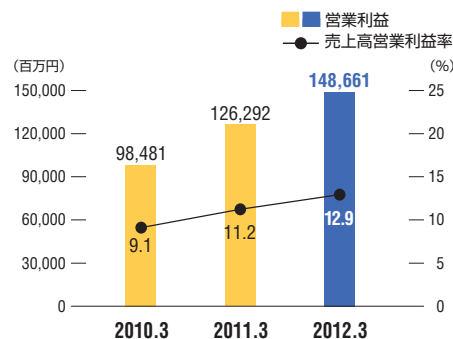
※©2012 IMS Health. All rights reserved.

営業利益



17.7%増

(前期比)



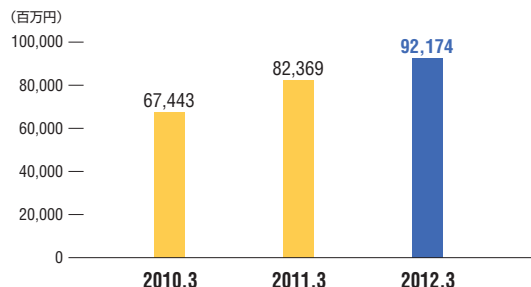
売上高の増加に伴う売上総利益の増加のほか、BMS社*との「エビリファイ」に関する売上配分比率の変更に伴う販売促進費の減少、および研究開発費の効率化による減少等の結果、営業利益は148,661百万円(対前期比17.7%増)となりました。

※ Bristol-Myers Squibbカンパニー社

当期純利益

↑ **11.9%増** (前期比)

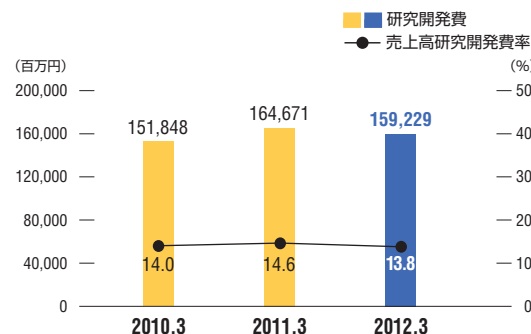
経常利益は、円高の影響による為替差損を2,712百万円計上したこと等により、152,119百万円(対前期比18.5%増)となり、当期純利益は92,174百万円(対前期比11.9%増)となりました。1株当たり当期純利益は、165.20円となっております。



研究開発費

↓ **3.3%減** (前期比)

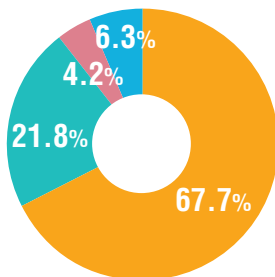
研究開発については、円高の影響のほか、ルンドベック社との提携による開発費の軽減、プロジェクトの見直しによる経費の工夫等により、159,229百万円(対前期比3.3%減)となりました。



事業セグメント別売上高

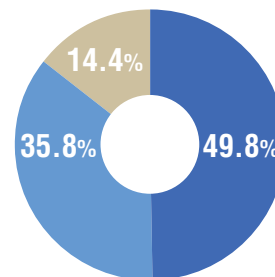
外部顧客に対する売上高

事業セグメント	(億円)
医療関連事業	7,822
NC関連事業	2,513
消費者関連事業	480
その他の事業	731



外部顧客に対する売上高(売先別情報)

地域	(億円)
日本	5,749
北米	4,135
その他	1,662



配当金

当期の期末配当金につきましては、1株につき25円とさせていただきます。すでに2011年12月2日に実施済みの中間配当金1株当たり20円とあわせて、年間配当金は1株当たり45円となります。

詳しくは当社のIRサイトをご覧ください。

<http://www.otsuka.com/jp/ir/>

医療関連事業

中枢神経領域では、抗精神病薬「エビリファイ」が引き続き業績を拡大し、グローバル売上は前期比4.8%増となりました。また、2011年11月には同領域の成長を加速すべく、アリピプラゾール持続性注射剤とOPC-34712についてルンドベック社とグローバル・アライアンス契約を締結しました。新製品では、ユーシービー・ジャパン(株)と国内で共同販促する抗てんかん剤「イーケブラ」が売上を伸ばしました。

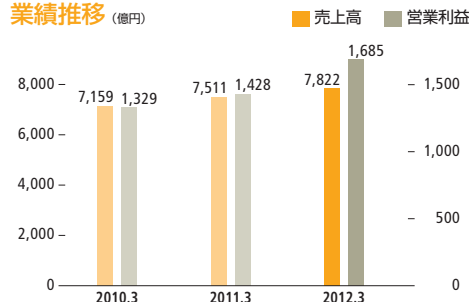
がん領域では、抗がん剤「ティーエスワン」が胃がん患者減少の影響で減収となるなか、新製品の制吐剤「アロキシ」と抗がん剤「アブラキサン」が順調に推移し、同領域売上合計は増収となりました。また、BMS社と日米欧で共同販促を行っている抗がん剤「スプリセル」は、グローバルで慢性骨髄性白血病での第一選択薬として承認となり、売上は順調に伸長しています。

循環器領域では、抗血小板剤「プレタール」が、国内での後発品の影響により減収となりましたが、グローバルで展開する利尿剤「サムスカ」は、市場への浸透が進み売上が前期比で倍増しました。

臨床栄養分野では、高カロリー輸液「エルネオパ」が増収となりました。

Pharmaceutical Segment

業績推移 (億円)



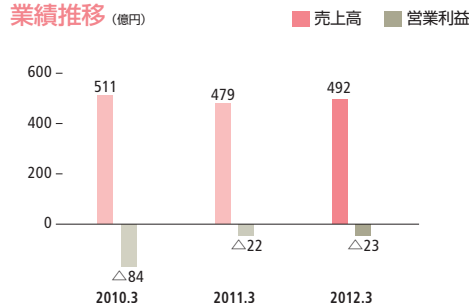
消費者関連事業

「クリスタルガイザー」などのミネラルウォーター類は、東日本大震災の影響により一時的に供給が不安定になりましたが、秋以降には安定供給が可能となり売上も堅調に推移しました。ビタミン炭酸飲料「マッチ」は、積極的なマーケティング戦略・営業活動などにより前期比20%以上の販売量増となりました。また、(株)伊藤園との自動販売機における提携により、「ジャワティ」など茶系飲料の販売も伸長しました。

当事業においては、マーケティング強化とともに、収益構造の改革に向けた様々な施策を継続的に実施しています。

Consumer Products Segment

業績推移 (億円)



ニュートラシューティカルズ関連事業

イオン飲料「ポカリスエット」は、国内では猛暑の好影響を受けた前期の販売量を下回りましたが、海外では前期比20%以上の販売量増となりました。特にインドネシアでは、継続した製品価値訴求が市場に浸透し、過去最高の売上を更新しました。

サプリメント「ネイチャーメイド」は米国では堅調に推移、国内においても「スーパーマルチビタミン&ミネラル」「スーパーフィッシュオイル」といった新製品を追加投入するとともに、ブランドの訴求に傾注しました。

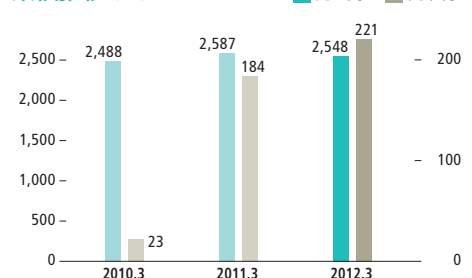
「オロナミンC」は、(株)伊藤園との自動販売機における提携や販促活動が功を奏し、前期を上回る結果となりました。

「肌の健康」をテーマにした健粧品(コスメティクス[※])事業では、男性スキンケアブランド「UL・OS(ウル・オス)」に「UL・OS 薬用スカルプシャンプー」を新規に投入しました。また、2012年3月には韓国で新発売し、海外展開を開始しました。

当事業においては、当社本来の製品価値訴求型の販促活動に注力するとともに、継続した経費活用の工夫による収益構造の改革に向けた取り組みを推進し、成果をあげました。

Nutraceutical Segment

業績推移 (億円)



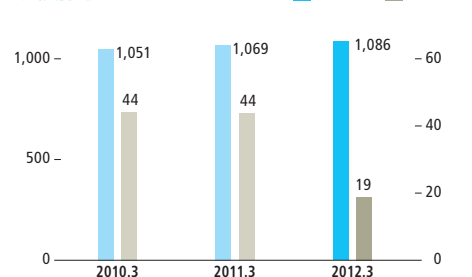
※ cosmetics (化粧品) + medicine (医薬品) の造語

その他の事業

機能化学品分野では、震災やタイの洪水、欧州経済危機等による厳しい市場環境下、米国における自動車分野の復調・中国の堅調な市場伸長により、摩擦材用「ディスモ」「テラセス」が後半より回復、伸長しました。ファインケミカル分野は、抗生物質原料「YTR」が海外での後発品による影響、医薬中間体「GCLE」が価格下落の影響等で減収となりました。

Other Segment

業績推移 (億円)



連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期	当期
	(2011年3月31日 現在)	(2012年3月31日 現在)
[資産の部]		
1 流動資産	921,230	1,012,299
固定資産	668,416	654,404
有形固定資産	256,832	255,515
無形固定資産	77,088	67,121
投資その他の資産	334,495	331,767
投資有価証券	261,203	267,011
2 繰延税金資産	32,245	25,347
その他	41,140	39,899
貸倒引当金	△92	△491
繰延資産	69	63
資産合計	1,589,717	1,666,767

科目	前期	当期
	(2011年3月31日 現在)	(2012年3月31日 現在)
[負債の部]		
3 流動負債	275,559	311,359
固定負債	150,832	132,642
負債合計	426,392	444,002
[純資産の部]		
株主資本	1,202,293	1,267,732
資本金	81,690	81,690
資本剰余金	510,639	510,639
利益剰余金	609,967	675,410
自己株式	△4	△8
その他の包括利益累計額	△52,091	△59,144
新株予約権	464	1,134
少数株主持分	12,658	13,041
純資産合計	1,163,325	1,222,764
負債純資産合計	1,589,717	1,666,767

Point 1 流動資産

当期における業績が堅調に推移したことによる受取手形および売掛金が23,808百万円、およびルンドベック社との中枢神経領域におけるグローバル・アライアンス契約による契約一時金200百万ドルの入金に伴い有価証券が29,242百万円、その他現金および預金が24,063百万円増加しております。

Point 2 長期繰延税金資産

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」および「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」が公布され、2012年4月1日以降開始する連結会計年度より法人税率が変更されたこと等に伴い長期の繰延税金資産が6,897百万円減少しております。

Point 3 流動負債

当期利益の増加およびルンドベック社との中枢神経領域におけるグローバル・アライアンス契約により受領した契約一時金200百万ドルに係る法人税等を計上したこと等に伴い未払法人税等が20,521百万円増加したこと、および当該一時金の一部がその他流動負債に計上されたこと等に伴いその他流動負債が15,566百万円増加しております。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

区 分	前 期	当 期
	(自 2010年4月1日 至 2011年3月31日)	(自 2011年4月1日 至 2012年3月31日)
4 営業活動によるキャッシュ・フロー	87,746	147,618
投資活動によるキャッシュ・フロー	△131,509	△107,629
5 財務活動によるキャッシュ・フロー	113,566	△41,065
現金及び現金同等物に係る換算差額	△5,323	△1,361
現金及び現金同等物の増加額	64,481	△2,436
現金及び現金同等物の期首残高	321,306	387,325
連結範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	1,538	△694
現金及び現金同等物の期末残高	387,325	384,194

Point 4 営業活動によるキャッシュ・フロー

当期は、業績が堅調に推移したことにより税金等調整前当期純利益が19,374百万円増加したことに加え、ルンドベック社との中枢神経領域におけるグローバル・アライアンス契約による契約一時金200百万ドルの一部について、前受収益計上したこと、および仕入債務の増加、法人税等の支払額の減少等により、営業活動により獲得したキャッシュ・フローが増加しました。

Point 5 財務活動によるキャッシュ・フロー

前期は、2010年12月15日の上場の際に38,678千株の新株発行と42,550千株の自己株式の処分を実施し、これらにより総額162,735百万円の資金調達を行いました。

連結株主資本等変動計算書(要旨)

当 期(自 2011年4月1日 至 2012年3月31日)

(単位:百万円)

区 分	株主資本					その他の 包括利益 累計額	新株 予約権	少数株主 持分	純資産 合 計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計				
当期首残高	81,690	510,639	605,882	△4	1,198,208	△48,084	464	12,658	1,163,247
会計方針の変更による累積的影響額	—	—	4,084	—	4,084	△4,007	—	—	77
遡及処理後当期首残高	81,690	510,639	609,967	△4	1,202,293	△52,091	464	12,658	1,163,325
当期中の変動額									
連結範囲の変動			45		45				45
剰余金の配当			△26,775		△26,775				△26,775
自己株式の取得				△4	△4				△4
当期純利益			92,174		92,174				92,174
株主資本以外の項目の当期中の変動額(純額)						△7,052	669	383	△5,999
当期中の変動額合計	—	—	65,443	△4	65,439	△7,052	669	383	59,439
当期末残高	81,690	510,639	675,410	△8	1,267,732	△59,144	1,134	13,041	1,222,764

開発品目一覧

2012年3月末現在で第Ⅲ相臨床試験段階(フェーズⅢ)以降にある開発品目を以下に示します。
(詳細は当社ホームページをご覧ください)

領域	開発コード/製品名(一般名)	効能/剤型	開発段階					
			日本		米国		欧州	
			フェーズⅢ	申請中	フェーズⅢ	申請中	フェーズⅢ	申請中
中枢神経領域	OPC-14597 (エビリファイ) 〈アリピプラゾール〉	統合失調症/持効性注射剤	●			●	●	
		大うつ病補助療法/経口剤	●					
		トレット障害/週1回経口剤			●			
	L059 (イーケブラ) 〈レベチラセタム〉	小児てんかん部分発作/経口剤	●					
		てんかん全般発作/経口剤	●					
		てんかん部分発作/注射剤	●					
		てんかん部分発作の単剤療法/経口剤	●					
	SPM-962 〈ロチゴチン〉	パーキンソン病/貼付剤		●				
		レストレスレッグス症候群/貼付剤		●				
	OPC-34712	大うつ病補助療法/経口剤			●		●	
統合失調症/経口剤		●		●		●		
がん・がんサポーター領域	S-1 (ティーエスワン) 〈テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム〉	胃がん/経口剤			●			
		子宮頸がん/経口剤	●					
		肝細胞がん/経口剤	●					
	ABI-007 (アブラキサン) 〈アルブミン結合バクリタキセル〉	非小細胞肺癌/注射剤		●				
		胃がん/注射剤		●				
	OVF 〈フェンタニルクエン酸塩〉	がん性疼痛/口腔粘膜吸収剤	●					
	TSU-68 〈orantinib〉	肝細胞がん/経口剤	●					
SATIVEX 〈nabiximols〉	がん性疼痛/口腔内スプレー製剤			●				
循環器領域	OPC-41061 (サムスカ) 〈トルバタマン〉	常染色体優性多発性嚢胞腎/経口剤	● ^{※1}		● ^{※1}		● ^{※1}	
		肝性浮腫/経口剤	●					
その他領域	YP-18 (ゾシン) 〈ピペラシリンナトリウム、タゾバクタムナトリウム〉	腹膜炎、腹腔内膿瘍、胆嚢炎、胆管炎/注射剤		●				
		発熱性好中球減少症/注射剤	●					
	OPC-262 〈サキサグリブチン〉	2型糖尿病/経口剤	●					
	OPC-6535 〈テトミラスト〉	クローン病/経口剤	● ^{※2}					
OPC-67683 〈デラマニド〉	多剤耐性肺結核症/経口剤	●		●		●		

【後発事項】 OPC-262 (サキサグリブチン) 2012年4月 2型糖尿病の適応症で承認申請を行いました。

※1 フェーズⅡ-Ⅲ追加臨床試験を準備中

※2 フェーズⅡ/Ⅲ

ドライアイ治療剤「ムコスタ点眼液UD2%」

目のごろごろ感や痛みなどの不快な症状を改善するドライアイ治療剤「ムコスタ点眼液UD2%」を国内で2012年1月に発売しました。本剤は、角膜および結膜のムチン産生を促進し、涙の質を正常化させ、角膜と結膜の傷を修復することにより、多くのドライアイの患者さんが悩んでいる不快な症状を早期に改善することが確認されたドライアイ治療剤です。

「ムコスタ点眼液」の有効成分であるレバミピドは、大塚製薬が販売する胃炎・胃潰瘍治療剤「ムコスタ」として、20年以上にわたり広く処方されています。そのレバミピドの胃粘膜でのムチン増加作用と粘膜修復作用に着目し、“涙の質を変える”という当社ならではの視点で点眼液に応用しました。防腐剤を含まず、刺激性が少ない1回使い切りタイプのユニット・ドーズ製剤として、全国の医療機関で処方されています。



アリピプラゾール持効性注射剤を米国において承認申請

2011年11月、米国におけるアリピプラゾール持効性注射剤（月一回製剤）に関する、成人の統合失調症の維持治療を適応症とする承認申請が、米国食品医薬品局（FDA）より受理されました。

統合失調症の患者さんにとっては、薬の飲み忘れなどが理由で、疾患の再発・増悪が起こることが大きな問題になっています。本剤は1カ月に1回の注射によって毎日薬を服用するわずらわしさを軽減し、服薬遵守を改善することで再発・増悪を抑制します。

大塚製薬とルンドベック社（本社：デンマーク）は、2011年11月11日に中枢神経領域におけるグローバル・アライアンス契約を締結しました。本契約に伴い、両社は全世界において、本剤の開発・商業化を共同で行ってまいります。



ティーエスワン(欧州製品名: Teysuno)が 欧州にて販売開始

「ティーエスワン」は、大鵬薬品が開発し、優先審査を受けて1999年に最初に胃がんの適応症で国内における承認を取得しました。アジアでは、韓国、中国、シンガポール、台湾で胃がんの適応症で販売されています。

欧州では、2011年3月に欧州医薬品庁より、シスプラチンとの併用にて進行性胃がんのファーストライン治療薬として承認を受け、大鵬薬品と欧州における販売委託先のノルディックグループBV（本社：オランダ）は、2012年3月より北欧4カ国（スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、フィンランド）、4月より英国において「Teysono」のブランド名で販売を開始しました。





大塚製菓株式会社

ヘルシー大豆スナック

「ソイカラ(SoyCarat)」

■ 2012年4月11日発売 1袋(27g):147円(税込)

オススメ
Points

- 従来のスナックの気になる栄養問題を解決すべく「まるごと大豆」を主原料として開発
- 子どもから大人までが楽しめる、振ると「カラカラ」音が鳴る、五感で味わうスナック
- ノンフライ製法でヘルシー

ニュートラシューティカals事業部
Soylution プロジェクトリーダー

黒木 久美子

常識を打破した夢のスナック誕生

大塚グループは、大豆(Soy)が、地球上の健康問題、環境問題などの解決(solution)になる「Soylution」の考えのもと、大豆の栄養をまるごと、おいしく摂取できる製品を研究開発し、新しいカタチとして世界に提案しています。

ヘルシー大豆スナック「ソイカラ」は、世界11カ国・地域で展開するフルーツ大豆バー「ソイジョイ」、国内で展開する大豆炭酸飲料「ソイッシュ」に続く第三弾の製品として、4月11日に全国発売しました。

大豆をテーマに研究を続ける当社は、
スナックの常識を打ち破りました。

- ① おからも含む「まるごと大豆」を主原料にしたヘルシースナックを開発しました。
- ② タンパク質を多く含む「まるごと大豆」からできているため、炭水化物の多い原料に比べると加工が難しくなりましたが、大塚の大豆研究から見出した独自のノウハウを活かして、大豆の生地を薄く均等に膨らませることに成功しました。
- ③ 大豆の生地が膨らむことでできた「サヤ」の中で「豆」が動き、振ると「カラカラ」と音が鳴る遊びごころを加えた「ソイカラ」が誕生しました。



大豆の「サヤ」と「豆」をイメージした「ソイカラ」

ニュートラシューティカals事業部
Soylution プロジェクト

梶 綾子

「ソイカラ」は、一袋に中粒の大豆約50粒分を含みながらも、大豆特有の風味を抑えたマイルドなチーズフレーバーで、カロリーはノンフライ製法により123kcalに抑えました。ヘルシー大豆スナックとして、子どもから大人までが楽しめ、スナックを敬遠しがちな健康志向の高い方にもおすすめです。



製品技術第二研究所
所長

福田 哲夫

製品技術第二研究所
研究員

山田 薫

製品技術第一研究所
所長

半谷 いづみ

新たな「Soylution」の提案へ

大塚グループでは、人類にとって貴重なタンパク源であり、古くより日本の食文化として親しまれてきた大豆の無限の可能性に着目しています。徳島の製品開発研究部門を大豆に特化した研究所と位置づけ、優れた食材でありながら多くの国の人々にとってなじみの少ない大豆を、その栄養を余すことなく世界の人々が摂りやすい形にするため、「グローバルな大豆製品の開発」に取り組み、大豆の新たな形態や味への探求を続けています。



大塚食品株式会社

「シンビーノ ジャワティストレート ホワイト 500mlペットボトル」

■ 2012年3月12日発売 500ml ペットボトル: 147円(税込)



オススメ
Points

- 無糖・無香料・無着色のストレートティ
- すすがしくやわらかな味わい
- ハーブを思わせる甘く爽やかな香り
- 輝きのある黄金色の水色(すいしょく)

食べる飲びに、もっと選ぶ飲びを

「シンビーノ ジャワティストレート ホワイト」は、インドネシアのジャワ産茶葉の中でも希少な、白い産毛に覆われた新芽(Silver Needle)を微発酵させて原料に使用したテーブルドリンクです。ハーブを思わせる甘く爽やかな香りは魚料理などのクセを和らげ、また、黄金に輝く色調の美しさから、白ワインに近い感覚で料理と一緒に楽しみたいだけです。

発売中の「シンビーノ ジャワティストレート レッド」とともに、華やかな2種類の無糖のストレートティを揃え、濃厚な料理には豊潤な味わいの「レッド」を、繊細な料理にはやわらかな味わいの「ホワイト」をあわせていただくなど、料理や雰囲気に応じて選べる新しいテーブルドリンクの楽しみ方をご提案いたします。



マーケティング部
嗜好飲料製品部 部長

吉永 暁

東日本大震災への 対応と支援について

大塚グループでは、2011年3月11日に発生した東日本大震災に際し、地震発生直後に危機対策本部を立ち上げグループ内の連携を密に対応しました。被災地にある仙台支店では、手持ちの製品在庫を集め、震災翌朝より緊急対応病院や自治体の災害対策本部に届けました。東京本社では、関係省庁や業界団体と連携し、当社グループの医薬品、飲料、食品を支援物資として手配しました。また、世界中のグループ会社から支援を希望する声が寄せられたことを受け、グループ社員3万9,000人^{*}の総意として、一人当たり1万円に相当する3億9,000万円を義援金として日本赤十字社を通じて寄付しました。

^{*}非連結のグループ会社を含む



東日本大震災における支援に対して 宮城県、東京消防庁から感謝状

こうした当社グループの迅速な対応やその後の支援に対し、2012年2月に宮城県から感謝状を授与されました。

また、大塚製薬は、東京消防庁を物資面で支援している財団法人東京都消防懇話会と、災害時における食料品調達に関する協定を2010年に結び、震度5強以上の地震が東京都で発生した際には、東京消防庁の活動を支援するため、必要な飲料・食品を供給する体制を整えています。

東日本大震災の際には、協定内の飲料・食品の供給に加え、当社グループの製品を被災地に向かう派遣隊に無償提供しました。これに対し、東京消防庁消防総監から感謝状を授与されました。

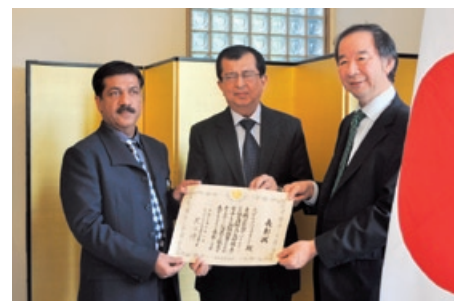
「大塚ウエルフェアクリニック」パキスタンでの 8年にわたるアフガン難民の診療活動に対して 駐パキスタン日本国大使から表彰状を授与

大塚グループでは、大塚製薬と大塚パキスタンをはじめ、アジア・アラブ地域で事業を展開するグループ25社が協力し、2003年にアフガン難民のための診療所「大塚ウエルフェアクリニック」をパキスタンのペシャワールに設立しました。

設立から8年間にわたる無償での医療活動が、地域福祉に特筆すべき貢献となり、両国の親善を深めるのに大いに役立ったとして、この度、駐パキスタン日本国大使から表彰状が授与されました。

2001年のアメリカ同時多発テロをきっかけにアフガニスタンから押し寄せた避難民は、国境近くの町ペシャワールの難民キャンプで衣食住もままならない環境に置かれていました。当社は、アジアで事業を展開する生命関連企業として、現地で直接難民を支援したいとの想いから検討を重ねた結果、難民キャンプで満足に医療を受けられない方々のために無償で診療を行うことを決定し、同クリニックを設立するに至りました。同クリニックには1日に約260人が訪れ、これまでに65万人以上が受診しています。現在は、3名の医師と助産師、薬剤師ら合計8名のスタッフが常勤して、難民のみならず近隣住民の診療も行い、地域に根ざした医療機関となっています。

大塚グループは、今後も人々の健康に寄与すべく地域に根ざした事業活動を行ってまいります。



事業所内保育所「ビーンスターク保育園とくしま」を開園

2011年4月、大塚グループ発祥の地である徳島において、事業所内保育所第一号となる「ビーンスターク保育園とくしま」を開園しました。「ビーンスターク保育園」という名前は、イングランド民話「ジャックと豆の木」に登場する「晩に種をまくと朝には天まで伸びる豆の木」にちなんでつけられました。広々とした平屋建ての同園は、太陽熱や光・風・植栽を活用して快適な空間を生み出す建築設計を採用し、酷暑日以外は冷房の使用を抑えることが可能です。子どもたちが様々なものに興味を持ち、豊かな思考力が育つように多様な保育プログラムを実施しています。徳島県産の杉の木をふんだんに使用した、安全で衛生的な保育環境のなか、家族とともに、子どもの才能、個性、創造性を培う保育を目指しています。

ワークライフバランスの重要性が問われる近年、子育てをしながら安心して働き続けられる環境整備の一環として、将来的には国内外への設置も検討していきます。



新作歌舞伎～和と洋のコラボレーション

第三回システィーナ歌舞伎「GOEMON 石川五右衛門」

大塚国際美術館(徳島県鳴門市)では、ヴァチカンのシスティーナ礼拝堂を原寸大に立体再現した「システィーナ・ホール」を舞台とする松竹新作歌舞伎「GOEMON 石川五右衛門」を、2011年11月12～14日に上演しました。

システィーナ歌舞伎は、「和と洋のコラボレーション」「創作による新作歌舞伎」「地元からの共演」をコンセプトにしています。今公演では、歌舞伎の“和”にフラメンコの“洋”を取り入れ、徳島県出身の世界的なフラメンコ舞踊家である小島章司氏(2009年文化功労者)が特別出演、義太夫節とフラメンコギターという東洋と西洋の“魂の音楽”が美しく融合する魅惑的な舞台となりました。巨匠ミケランジェロが描き上げた「天地創造」の鮮やかな天井画を背景にした五右衛門の宙乗りなど、歌舞伎のケレンを盛り込んだダイナミックな演出も今公演の魅力となりました。

大塚国際美術館は、大塚グループ創業75周年記念事業として1998年に設立した、世界でただ一つの陶板名画美術館です。古代遺跡や教会壁画、25カ国190余の美術館が所蔵する古代から現代まで1,000余点の世界の名画を大塚オーミ陶業の特殊技術によってオリジナル作品と同じ大きさで再現、半永久的に色褪せず、原画の持つ美術的価値を伝えます。

大塚国際美術館では「文化立県とくしま」との融合を図り、今後も様々なイベントや企画を提案してまいります。

大塚国際美術館ホームページ <http://www.o-museum.or.jp/>



Corporate Data

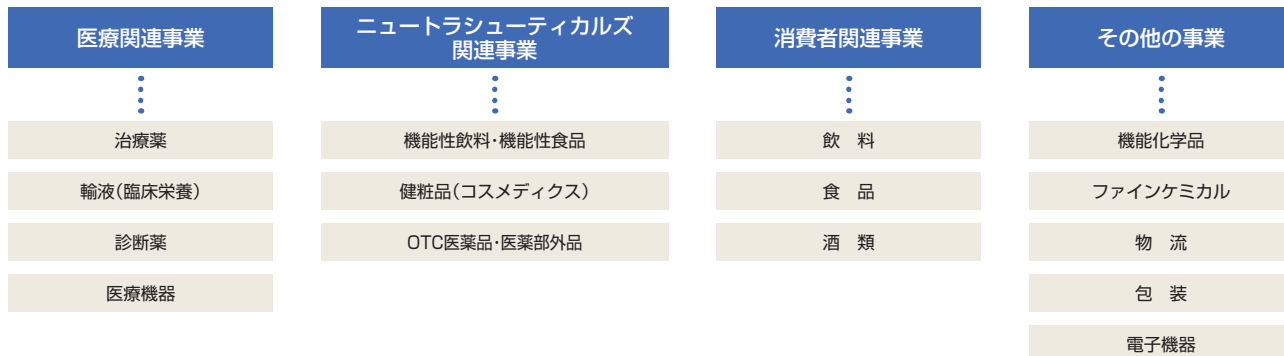
◎大塚ホールディングス株式会社(Otsuka Holdings Co., Ltd.)

設 立 2008年7月8日
資 本 金 816億90百万円
本 店 〒101-0048
 東京都千代田区神田司町二丁目9番地
東京本部 〒108-8241
 東京都港区港南二丁目16番4号
 品川グランドセントラルタワー
従 業 員 65名(大塚ホールディングス連結従業員数:24,595名)
連結対象会社数 連結子会社 67社、持分法適用会社 13社
事業内容 医療関連事業、ニュートラシューティカルズ関連事業、消費者関連事業、
 その他の事業を営む会社の株式を所有することによる当該会社の事業
 活動等の支配および管理ならびにそれに附帯関連する一切の事業等
U R L <http://www.otsuka.com/>

◎役員一覧

代表取締役会長	大塚 明彦
代表取締役副会長	大武 健一郎
代表取締役社長兼CEO	樋口 達夫
取締役副社長	大塚 一郎
専務取締役	牧瀬 篤正
常務取締役	東條 紀子
常務取締役	松尾 嘉朗
取締 役	大塚 雄二郎
取締 役	小林 幸雄
取締 役	戸部 貞信
常勤監査役	谷口 正俊
社外監査役	勝田 泰久
社外監査役	矢作 憲一
社外監査役	菅原 洋

◎事業セグメント



Stock Information

◎株式の状況

●発行可能株式総数	1,600,000,000株
●発行済株式の総数	557,835,617株
●株主数	43,720名

◎大株主

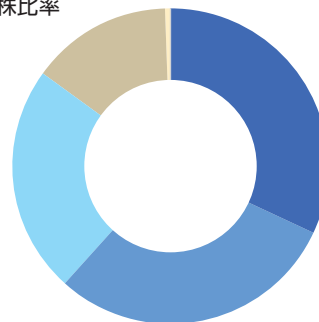
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
野村信託銀行株式会社 大塚創業者持株会信託口	65,029	11.65
大塚エステート有限公司	40,629	7.28
大塚グループ従業員持株会	28,540	5.11
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	20,081	3.59
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	17,217	3.08
大塚アセット株式会社	12,000	2.15
株式会社阿波銀行	10,970	1.96
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT - TREATY CLIENTS	8,645	1.54
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口9)	6,004	1.07
東邦ホールディングス株式会社	5,670	1.01

(注) 1. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しています。

2. 持株比率は自己株式(3,978株)を控除して計算しています。

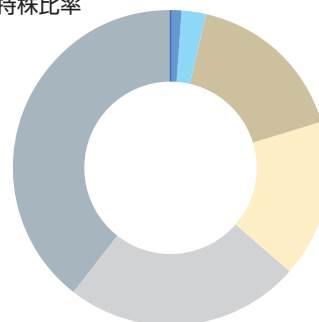
◎株式分布状況

●所有者別持株比率



■個人・その他	42,689名	31.95%	■外国法人等	438名	14.37%
■金融機関	75名	29.87%	■証券会社	23名	0.41%
■その他の法人	494名	23.40%	■自己株式	1名	0.00%

●所有株数別持株比率



■100株未満	612名	0.00%
■100株以上1,000株未満	33,407名	1.16%
■1,000株以上10,000株未満	5,858名	2.72%
■10,000株以上100,000株未満	3,436名	16.54%
■100,000株以上1,000,000株未満	332名	16.16%
■1,000,000株以上5,000,000株未満	64名	24.01%
■5,000,000株以上	11名	39.41%

◎株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで	
基準日	定時株主総会・期末配当金 中間配当金	3月31日 9月30日
定時株主総会	毎年6月	
1単元の株式数	100株	
株主名簿管理人 特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社	
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-7111(通話料無料)	
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部	
公告方法	電子公告 公告掲載アドレス http://www.otsuka.com/ (ただし、事故その他やむを得ない事由によって、 電子公告による公告をすることができない場合は、 日本経済新聞に掲載して行います。)	

◎株式に関する手続きについて

株式に関する各種お手続きにつきましては、ご所有の株式が記録されている口座(証券会社等の口座・特別口座)によって窓口が異なりますので、ご注意ください。

お手続き・ ご照会の内容	特別口座に 記録された株式	証券会社等の 口座に 記録された株式
単元未満株式の買取・買増請求 届出住所・氏名等の変更 配当金の受領方法・振込先の変更	特別口座の口座 管理機関である 「三菱UFJ信託銀行株式会社」にお 問い合わせください。	口座を開設され ている証券会社 等にお問い合わせ ください。
特別口座の残高照会 特別口座から一般口座への振替請求	—	—
郵便物の発送・返戻に関するご照会 未払い配当金に関するご照会 その他株式事務手続きに関する一般的なご照会	株主名簿管理人である「三菱UFJ信 託銀行株式会社」にお問い合わせください。	—

株主優待のご案内

対象となる株主様

毎年3月31日現在の株主名簿に記載されている100株
(1単元)以上ご所有の株主様

ご優待の内容

3,000円相当の
当社グループ製品

2012年3月31日現在、100
株(1単元)以上ご所有の株主
様には、「ボカリスエット・
カロリーメイト・ソイカラ・
ソイッシュ・ソイジョイ詰め
合わせ」をお届けいたします。



HPのご案内

当社のIRサイトでは、決算資
料などの各種資料、決算説明会
の動画配信などのIR関連情報
をご覧ください。



大塚ホールディングス ホームページ

<http://www.otsuka.com/>

IRサイト

<http://www.otsuka.com/jp/ir/>

大塚ホールディングス株式会社

<http://www.otsuka.com/>

